

## 令和7年度 第1回燕市食物アレルギー対応委員会 会議録（要旨）

日 時：令和7年7月16日（水） 15時30分から16時45分まで

場 所：燕市役所 会議室301

出席委員：松野委員、伊東委員、齊藤委員（委員長）、青木委員、落合委員、片野委員、  
小嶋委員、青山委員

事務局：教育長、教育次長、教育委員会主幹、学校教育課長、こども政策部長、こども未来課長、ほか職員9人

議 題：（1）小・中学校における食物アレルギー対応の現状について  
（2）児童クラブにおける食物アレルギー対応の現状について  
（3）保育園・こども園における食物アレルギー対応の現状について  
（4）その他

【以下、会議録（要旨）】 ※個人の診療、対応についての記録は省略します。

### 開 会

教育長挨拶

委員長挨拶

### 議 題

（1）小・中学校における食物アレルギー対応の現状について

《事務局》

① 各小・中学校における食物アレルギー対応給食の児童生徒数

令和3年度から令和7年度までのアレルギー対応給食の児童生徒数の報告をした。

② エピペン®処方者の人数

令和3年度から令和7年度までのエピペン®を処方されている児童生徒数の報告及び学校別人数内訳を報告した。

③ 学年別食物アレルギー対応給食児童生徒数

学年別、アレルギー別の児童生徒数を報告した。

④ 食物アレルギーに係る誤食等の発生について

令和7年1月1日から令和7年5月31日までの間、食物アレルギーに関連した事例が1件あったことを報告した。

⑤ 食物アレルギー対応に係る職員研修

市教育委員会がアレルギーマニュアルの運用について、9月3日に研修会を実施する予定であることを説明した。

⑥ 食物アレルギーをもつ児童生徒の保護者との情報交換会について

8月6日（水）に開催予定であり、小中学生の保護者及び年長児の保護者に周知したことを説明した。昨年度のアレルギー対応委員会で委員から「入学前に、学校給食で提供される食材を知らせた方が良い。」との意見があったことから、情報交換会の案内チラシに学校給食の説明を加えたことを報告した。

(2) 児童クラブにおける食物アレルギー対応について

《事務局》

- ① 児童クラブにおける食物アレルギー対応の児童生徒数  
令和3年度から令和7年度までの、アレルギー対応をしている児童数の報告をした。
- ② エピペン®処方者の人数  
令和3年度から令和7年度までの、エピペン®を処方されている児童数の報告をした。
- ③ 食物アレルギーによる誤食等の発生について  
令和7年1月1日から令和7年5月31日までの間、食物アレルギーに関連した誤食がなかったことを報告した。
- ④ 食物アレルギー事故を防止するための対応  
職員向けの食物アレルギー研修会を7月17日に開催することを報告した。また、エピペン®処方者が在籍する施設においては、エピペン®の使用方法について職場内研修を実施したこと、すべての職員を対象として心肺蘇生法やAED使用方法についての救命救急講習会を複数日程で実施したことを報告した。  
令和7年度夏季休業期間から、弁当配食サービスを開始するが、食物アレルギー対応食の提供はないことを報告した。

(3) 保育園・こども園における食物アレルギー対応について

《事務局》

- ① 各園の食物アレルギー対応給食の園児数  
令和3年度から令和7年度までの、アレルギー対応をしている園児数の報告をした。
- ② エピペン®処方者の人数  
令和3年度から令和7年度までの、エピペン®を処方されている園児数の報告をした。
- ③ クラス別食物アレルギー対応食園児数  
クラス別、アレルゲン別の対応園児数を報告した。
- ④ 食物アレルギーに係る誤食等の発生について  
令和7年1月1日から令和7年5月31日までの間、食物アレルギーに関する誤食事例が1件あったことを報告した。
- ⑤ 食物アレルギー対応に係る職員研修  
8月27日(水)に開催予定であることを報告した。

○青木委員(質問)

エピペン®処方者を消防本部に平成26年から報告してもらっていて、現在34名となる。最近になって、解除証明書が提出されたが、これはどのような意味をもつものなのか。また、「エピペン®が解除になった園児について」という報告を初めて受

け取ったが、これはめずらしいケースなのか。

○事務局（学校教育課学校給食係）

学校については、アレルギー対応食の解除証明書を受け取った後、学校が消防本部に報告することにはなっていないので、今後、様式を作成し報告できるよう検討する。ただし、中学校を卒業するまで解除にならなかった場合は、報告はできかねるのでご了承いただきたい。

○事務局（こども未来課）

公立保育園等では在園中にエピペン<sup>®</sup>が解除になった場合は、消防本部に報告書を提出している。

○松野委員

大人などでは、食物依存性運動誘発アナフィラキシーは治っているかの判断が難しい。食物経口負荷試験でも再現性が非常に低く、解除がしづらい。エピペン<sup>®</sup>を処方し続けているため、減らないという現状があると思う。

○青木委員（質問）

エピペン<sup>®</sup>の保管場所は決めているのか。

○片野委員

本校では、本人の通学カバンに保管することになっており、入っている場所を担当と一緒に確認している。また、カバンを入れるロッカーは誰が見てもわかるように赤色テープで表示している。また、エピペン<sup>®</sup>を2本処方されている生徒は、1本を職員室で預かってほしいと希望があり預かっている。職員が迅速に対応ができることが非常に大事なのでわかりやすい表示の工夫をしている。

○松野委員（意見）

私は、エピペン<sup>®</sup>は1本だけを処方している。誰が管理するか明確になっていないと思うので、小さい子であっても必ず自己管理をしてもらうことが基本であると指導している。

○事務局（こども未来課）

公立保育園等では、すぐ対応できるよう園児の症状の現れ方や活動場所を考慮し、エピペン<sup>®</sup>の保管場所を決めている。事務室や保育室の場合があるが、いずれも園児の手が届かない場所としている。

(4) その他

○落合委員

燕市内での食物アレルギー発症事例について、報告する。食物アレルギーをもつ生徒が、燕市内の公共施設で体調が急変してしまったが、施設職員がすぐに救急車を要請し、迅速な対応をしてくれたおかげで大事には至らなかった。また、学校にもきちんと情報共有されていた。保護者から、「安心して生活ができ、大変感謝している。」とのことであった。

○小嶋委員

今年度、4月17日の学校給食主任者会議で、学校給食係から学校の担当者へ食物アレルギー対応について注意点を詳しく説明していただいた。4月は異動で市外から来られる先生がいるため、燕市のアレルギー対応を知らない先生方がいるので、4月初めに説明会が開催され、大変ありがたかった。

閉 会